

～豊かな心と確かな力 瞳輝く寒川の子～

寒川町立寒川中学校

研究テーマ：「みんなで学び合い・高め合える学校づくり」

～ みんな にこにこ 一生懸命 生徒の主体性を育む指導と評価の一体化を目指して ～

1、実践の目的

平成30年改訂の学習指導要領では、目標及び内容が資質・能力の三つの柱で再整理された。これを受けて、各教科における観点別学習状況の評価の観点については、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理された。とりわけ、「主体的に学習に取り組む態度」については、知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりするために自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが求められており、その評価の手法や手立てについては議論が重ねられている。本校では、「主体的に学習に取り組む態度」の評価手法について学校全体で模索しながら指導と評価の一体化を図ることにより、生徒の主体性の向上を目指した。

2、実践の内容

(1) 校内研究の体制

今年度は「主体的に学習に取り組む態度」に関する指導や評価の手立てについて研究主題として取り組んだ。8月に北里大学理学部准教授田中保樹氏を招聘し、「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価に関する講演会を行った。

講演会で学んだことをふまえ、「生徒自らが学習状況の評価・改善を行う授業」というテーマをもとに、11月に国語科と英語科の研究授業を行った。その後の研究協議では、各教科における「生徒自らが学習状況の評価・改善を行う授業」についての提案を行い、職員間で共有した。

(2) 授業における ICT 端末の利活用について

サブテーマとして、GIGA スクール構想の潮流を受けて導入された生徒一人一台の学習 ICT 端末の授業場面における利活用についての学習会を行った。6月に職員アンケートを実施し、各教科における実践例の共有を行った。また、7月に ICT 支援員による講演会を行い、授業場面における ICT 端末の利活用についての学びを深めた。

3、実践の成果

(1) 「主体的に学習に取り組む態度」に関する指導や評価の手立て

8月に行った講演会では、北里大学理学部准教授 田中保樹氏より、「主体的に学習に取り組む態度」に関する指導や評価の手法についてご講演をいただいた。

学習評価は「学習目標の実現状況を把握し、指導の改善に生かす営み全般」を示し、教科授業の文脈においてあらゆる場面や

手法によって行われるものである。

とりわけ、「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価については、各教科等の学習の過程の節目において生徒が自らの学習状況を振り返り、その状況から見通しをもって次の学習へと進むことが可能となる評価に努めることが肝要である。

教科授業の文脈において、学習評価はあらゆる場面、手法で行われる。学習者の問題意識を顕在化させる「診断的評価」、学習過程における指導の改善や充実を図る「形成的評価」、学習の成果として資質・能力の高まりを見る「総括的評価」を適切に使い分けて指導と評価の一体化を図ることが重要となる。

そのために、学習の主体である生徒が学習の目的や目標などを適切に把握し、自らの成長を目指して学習に粘り強く取り組めるようにすること、また、資質・能力の育成を図るために自らの学習を調整できるようにすることが重要であると学んだ。

(2) 指導案検討・研究授業・研究協議

上述した「主体的に学習に取り組む態度」に関する指導や評価の手立ての視点に即し、「生徒自らが学習状況の評価・改善に取り組む授業」について国語科および英語科の授業研究を行った。生徒が相互評価を行い、国語科では論説文、英語科ではスピーチについて改善を図る活動を取り入れた。学習目標の達成に向けて、自らの学習を調整しながら粘り強く改善に取り組む生徒の姿がみられた。このことから、生徒間の相互評価を取り入れた学習活動は、「主体的に学習に取り組む態度」の涵養を導く一つの手法となることを見出された。

研究授業後の研究協議では、各教科における「生徒自らが学習状況の評価・改善に

取り組む授業」の手立てについて協議した。国語科および英語科での授業実践をふまえ、各教員が自らの授業への活用について思索することにより、全教員での学びを深めることができた。

(3) ICT 端末の利活用について

6月に「授業における学習端末の利用状況アンケート」を実施した。また、アンケートの結果をふまえ、7月に全教員で学習端末の利活用に関する学習会を行った。学習端末の利活用について、資料の提示や発表場面での活用など、事例をもとに共有し、教員全体で学びを深めることができた。

4、今後の展開

研究テーマとして掲げた「主体性を育む指導と評価の一体化」を目指して、今年度は「主体的に学習に取り組む態度」に関する指導や評価の手立てを軸として研究に取り組んだ。研究授業や研究協議を通じて、生徒が学習の目的や目標などを適切に把握し、自らの成長を目指しながら粘り強く調整して学習できるようにするための手立てについて、教員全体で学びを深めることができた。また、学習端末の利活用についても並行して研修を行い、授業場面における学習端末の適切な活用について議論することができた。今後の課題として、より高次の「主体的に学習に取り組む態度」の涵養に向けて、生徒自らが学習状況について客観的に分析できる記録媒体の開発や単元の学習における学習評価の適切な配置等について検討を重ね、教科の枠組みを越えた横断的な学びを通して生徒の資質・能力の育成を図っていきたい。